

大豆「里のほほえみ」の高品質安定生産のための適正な播種量および収穫時期の確立

要約

大豆新品種「里のほほえみ」について、播種量 4.5kg/10a と 5.5kg/10a で収量・品質を比較した結果、いずれも同等であった。また、しわ粒率、裂莢率は成熟期以降増加したことから、成熟後の速やかな収穫が高品質安定生産につながる。

○ 展示のねらい

当管内の大豆は 27 年度に「タチナガハ」から「里のほほえみ」に全面的に切り替わる予定となっている。そこで、播種量や収穫時期等について検討し、「里のほほえみ」の収量および品質が安定する栽培法を確立する。

展示内容

	播種量	栽植密度	適期収穫時期
試験区	4.5kg/10a	11.3本/m ² (畦間60cm×株間15cm)	適期収穫時期の検討 ※成熟期～収穫適期1ヶ月後程度の、茎水分、裂莢率の経過、品質(外観品質・裂皮粒率・しわ粒率)の推移を10日程度ごとに調査し、適期収穫の目安について検討
対照区	5.5kg/10a	13.8本/m ² (畦間60cm×株間12cm)	

○ 主な成果

表 1 収量・品質調査結果

	播種量	子実重(kg/10a)	百粒重(g)	大粒比率(%)	外観品質		
					等級	皮切粒	しわ粒
試験区	4.5kg/10a	383	39.9	95.7	1下	無	無
対照区	5.5kg/10a	387	41.1	94.8	1下	無	無

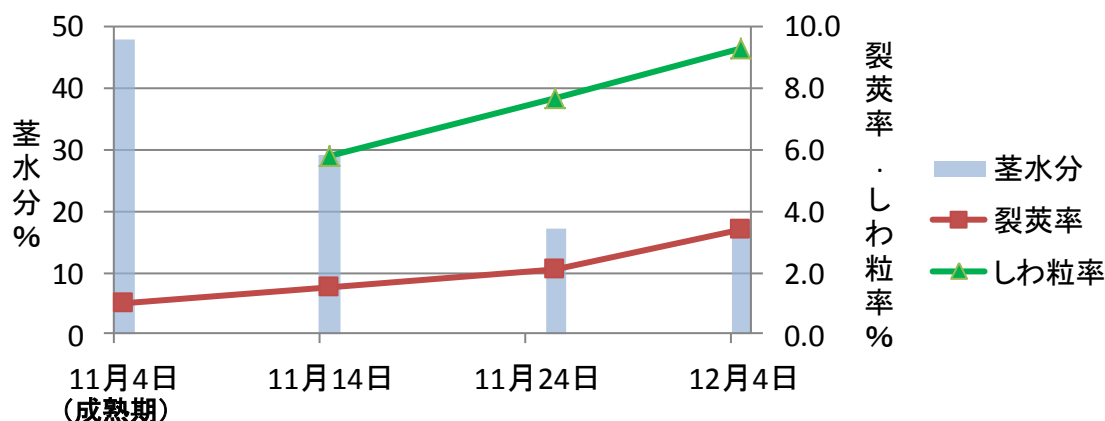


図 1 成熟後の品質・裂莢率の推移

播種量 4.5kg/10a と 5.5kg/10a とを比較した結果、収量・品質は同等であった(表 1)。また、大豆のしわ粒率、裂莢率は、成熟期(11月 4 日)を過ぎると経過日数に比例して増加することから、成熟後は速やかに収穫する必要がある(図 1)。

○ 今後の方向性

「タチナガハ」と比べてべと病に罹病しやすいため、効果的な薬剤および散布時期等について検討する必要がある。

実施機関：塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：那須烏山市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315